

研究主題

「豊かな心を持ち、よりよい生き方を求める児童の育成」

～「考え、議論する道徳」の授業を通して～

所沢市立北野小学校

1 研究主題の設定理由

本校では、「心豊かな児童の育成」を学校教育目標に掲げ、これまで、各学級において道徳の授業を要とし、日々の道徳教育に励んできた。市や県の道徳の研修会には、多くの職員が参加し、研修してきたことを授業に生かしている。人権教育週間には、全学級が道徳の授業を公開し、家庭や地域との連携も図っているところである。



本校の児童は、約束やきまりを進んで守り、級友や異年齢の児童とも仲間意識が高い。そのため、大きな争いごとも少なく、落ち着いた学校生活を送っている。また、進んで協力したり、助け合ったりできる児童が多い。一方で、頭では理解していても、思いやりのある行動ができない意志の弱さや、自己の振り返りの甘いところなどが課題である。

今回の研究主題の中にある「豊かな心」とは、人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考え、感じることでできる心のことである。そのような心を育成するためには、これからの道徳科の授業で、児童が道徳的価値を基に自己を見つめることができるような学習をしていかなければならない。新しい学習指導要領でも、自己を見つめることの大切さが述べられている。さらに、「よりよい生き方を求める」とは、他者の多様な考え方や感じ方にふれることで、自分の特徴を知り、伸ばしたい自己を見つけ、それを実現させていこうとする思いのことである。また、これは、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度にもつながる思いである。今後出会うであろう様々な場面や状況において、適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような児童の育成を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 児童の「主体的な学び」を促す授業を行えば、道徳的価値を自分のこととして考えられるであろう。
- (2) 他者との交流方法を工夫すれば、議論が深まり物事を多面的・多角的に捉えることができるであろう。
- (3) 指導と評価の一体化を図り、計画的に評価を積み重ねていけば、児童は自己理解を深め、道徳的価値を実践しようとする意欲が高まるであろう。

〈様式2〉

3 研究の経過

| 日付 等 | 研究の経過及び内容 |
|---------|--|
| 4月 3日 | 第1回校内研修 昨年度の報告，本年度の主題・方向性について |
| 4月 23日 | 第2回校内研修 研究組織，研修予定についての検討 |
| 5月 23日 | 第3回校内研修 オリエンテーション授業・協議【研究主任】 |
| 6月 7日 | 第4回校内研修 中学年研究授業・協議 指導者 聖徳大学大学院 教授 吉本恒幸様 |
| 7月 24日 | 第5回校内研修 指導案検討 |
| 7月 27日 | 第6回校内研修 研究発表当日の予定について 職員打ち合わせ |
| 8月 24日 | 第7回校内研修 指導案検討 |
| 10月 15日 | 第8回校内研修 低学年研究授業・協議 指導者 聖徳大学大学院 教授 吉本恒幸様 |
| 11月 7日 | 第9回校内研修 高学年研究授業・協議 指導者 埼玉県道德教育研究会 顧問 吉田 正様 |
| 11月 28日 | 研究発表 指導者 東京学芸大学 教授 永田 繁雄様 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 安元 信幸様 西部教育事務所指導主事 後藤 輝明様 |
| 1月 19日 | 学校公開日 全校道德授業公開 |

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

① 導入の工夫

導入は，主体的な学びを促すための大切な場面である。エピソードを話す，写真や場面絵を提示する，「彩の国の道德」を活用するなど，様々な導入の仕方があるが，本校で大切にしたのは，本時の道德的価値を考えるにあたって，日常生活と結び付けたり，他教科の活動と結び付けたりして考えられるようにすることである。そうすることによって，児童が問題意識をもち，道德的価値を自分のこととして考えられるようにしてきた。

② 交流方法の工夫

どの場面で話し合いをすれば，より議論が深まり，物事を多面的・多角的に捉えられるようになるのかを考え，意図的に交流の場面を設け，交流方法も工夫してきた。教師がファシリテーターとなって進めることが多いが，教材によって，役割演技やペア・小グループでの話し合い，帽子やネームプレートを使った意思表示など，効果的なものを選んで取り組んだ。そうすることで，児童がより多くの考えに触れることができ，考えを深めることができるようにした。



〈様式2〉

③ 板書の工夫

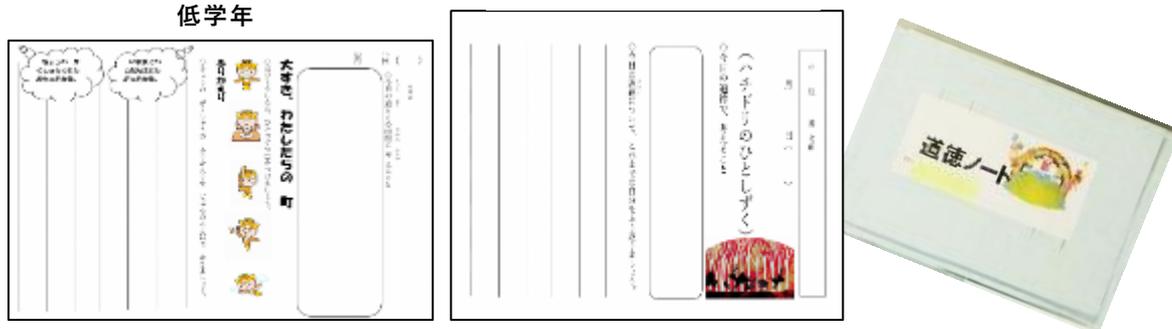
本時の道徳的価値を子ども達と教師が共有できるように、ねらいを明確に示すようにした。内容によって、上下、左右などに分けて書き、考えを比較しやすくしたり、吹き出しや矢印を使って考えをまとめたりするなど、話し合った流れを分かりやすく示し、考えを可視化できるように工夫を重ねた。毎時間の板書を記録し、授業の振り返りをするとともに、学年で共有して、よりよい板書作りに努めた。また、自分の考えや立場を示したり、発表者などを記録したりするのに、ネームプレートを活用した。



④ ワークシートの工夫

中・高学年

低学年



低学年は、「道徳科の授業における自己の振り返り方」を身につける助けとしてワークシートに「今までの自分はどうか」「今日の学習でどう思ったか」と書かれた吹き出しをつけ、児童がそれに答えるような形で書くことができるようにした。中・高学年のワークシートは、本時のねらいを自分で書き、振り返りを書くことができるようにした。これらのワークシートを蓄積することによって、「自己を振り返り、自らのよさや課題を見出すことができるようにした。

④ 指導と評価の工夫

評価には、「教師が自分の授業を振り返り、改善するための評価」と「児童が自らを振り返り、成長を実感し、意欲の向上につなげるための評価」の二つに分けて考えた。教師の評価は、板書を記



録したり、互いの授業を見合ったりして、指導の工夫・改善に生かした。児童の評価は、発言やワークシートの記述から道徳性に係る成長を見取り、個々を励ます評価をした。そして、この二つを関連づけながら「指導と評価の一体化」を図った。

〈様式2〉

(2) 環境整備部の取組

① 児童の道徳性を養う環境づくり



授業，心のめあて，学校生活それぞれの取組が繋がりをもつことで教育活動全体を通して児童の道徳性を養うことができるようにした。

② 実践意欲と態度を養う環境づくり

児童の実践意欲と態度を養うために，道徳的価値を發揮する場を重視した。時を守り，場を清め，礼をただすことをはじめ，縦割り班の活動や1年生と6年生の兄弟学級を通した取組、地域の方々との活動など，児童の実践意欲と態度を養う環境づくりを進めた。教師が道徳的価値發揮の場を意識し，多くの実践の場を設けるようにしてきた。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

○ 学習過程について

導入で児童に問題意識をもたせることで，ねらいとする道徳的価値やそれに関わる事象を児童が自分のこととして捉え，考えることができるようになった。

○ 職員の環境づくりについて

職員一人一人の道徳教育を大切に思う思いが高まり，児童の実践意欲の向上，児童の規律ある態度の育成につながった。また，「チーム北野」の合言葉のもと，全職員が一丸となって真摯に研究に取り組むことで，道徳に限らず，全教育活動においてよい成果を挙げることができた。

(2) 課題

● 指導法の工夫や発問の精選

道徳科の授業において、指導法の工夫や発問の精選を行う必要がある。毎回同じパターンの授業ではなく、効果的であると考えられる多様な指導方法を組み合わせた授業を展開し、児童がより考えたい発問を精選していく。

● 保護者・地域との連携を深めた道徳教育の推進

保護者への道徳アンケートを引き続き行い、学校・地域・家庭の連携のとれた道徳教育を推進していく。